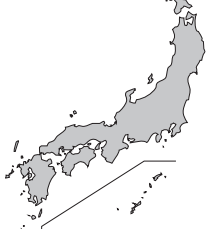


国土学事始め



大石久和

京都大学大学院
特命教授

京都の公家たちが政治を仕切る摂関時代から、地方に武士たちが興隆しそれぞれの地域を治める分権型の武家時代が始まる頃、関東では「平将門の乱」が起こりました。

将門は新帝を称したため朝敵とされたりする

など、時代によつ

て評価はまちまち

ですが、関東各地

には多くの将門伝説が存在しているし、江戸・東京にも神田明神や首塚など将門ゆかりの施設があります。また、NHKの大河ドラマで取り上げられたこともあります。

ここで紹介するのは、将門がいかに短期間に関東を駆け回ったかということです。将門の活動は反乱以前からあるものの、反乱そのものは93

9年(天慶2)11月に始まり、翌年の2月には終了した、き

平将門の乱と道路

わめて短時間の事件でした。

この短い期間に、将門は常

陸国府、下野国府、上野国府、

武蔵国府、相模国府、下総国

府と転戦したのです。現在の

ような高速道路もなく、舗装

された国道もない時代に、大勢の武装した武士たちが、こ

古代官道は幅員が広い(9

12^リ)ことや直線性に優れ

ている(14^キもの直線区間

の例がある)ことが、最近の

発掘によつて明らかになって

きたことは紹介したことがあ

ります。近江俊秀氏は官道の

利用が当時の社会を変えてき

たことに着目し、「道路は社会をどう変えたのか」という観点から、「日本の古代道路(角川選書)」を著わしました。

近江氏は、これだけの長距

離の短時間移動が可能だった

のは、古代官道が整備されて

いたゆえというのです。この

反乱以降、班田・口分田は消

えて公家の時代が終わり始

め、武士の存在が公認される

など、武家中心の時代となつ

てきました。

移動の容易性をもたらした

道路が、将門の乱を通じて新

たな時代を切り開いたので

す。